

「きのさき見て歩き」を開催しました

実施日 2024年6月7日（金）9：30～12：00（天気：晴れ）

講師 坂田 文一郎氏（城崎文化協会会長）

内容 「桃島池ほとり散策」

【桃島池・足切古墳】



開講式の後、桃島地区の古地図を見ながら、現在との地形の違いを確認しながら歩きました。

桃島池はかつて今よりも広く鉄道の近くまで池があったが、埋め立てられて現在の大きさになりました。

足切古墳まで歩き、古墳の規模や埋葬者について講師の解説を聞きました。

温泉寺縁起図に描かれている桃島の村の様子から、集落が神社近くに集まっていたこと、古墳は村に身近な村長クラスの墓ではないかということ、桃島池も漁場として活用されていたので、桃島は漁業と農業を営む豊かな村だったことが想像できます。

また、高尾山や中学校横の山頂にあるアンテナから、湯島との位置関係も確認しました。



トライやる活動中の中学生に『きのさき語りぐさ』から、桃島に伝わる「火の釜」と「金光さんの眼力」を語ってもらいました。

今年は講師とともに事前にコースを歩いていたこともあり、自分なりにまとめて発表してくれました。

【桃島神社参道口】



桃島神社の参道口で講師の解説を聞きました。

昔は桃島の村の中を川が通っており、寄進された板橋を渡って参道へ行っていました。その板橋がどこにあったのか、式内社の意味や火袋など石造品の解説を聞き、鉄道敷設前の参道を確認しました。

桃島の村の中に入り、古地図にある「いと」の位置、村の中の水路や水路に降りる石階段の遺跡を見てまわり、鉄道が敷設される前の桃島池の範囲をめぐるしました。

【杵が滝・つぶて岩】



あきつ橋を渡し、対岸にある杵が滝とつぶて岩へ行きました。

まず、杵が滝を見学しました。水が干上がっており、水滴がぽとぽと落ちる程度の滝でした。

桃島の古地図には桃島池を挟み、村の対岸につぶて岩という地名があり、ここから池のほとりに、桃島神社に向かって道が描かれています。つぶて岩から桃島神社までの道は、現在は道として使えるような跡があることがわかりました。

あきつ橋の下にあるコンクリート工作物の解説を聞きました。この工作物は、桃島池の水を農業用水として使えるようにするための汐留の装置とのことでした。

今回の見て歩きは、参加者からのリクエストが多かった桃島池周辺を巡るコースで実施しました。桃島地区は訪れる度に発見があり、歴史のある場所であるということをあらためて知った一日でした。

城崎庁舎へ戻り閉講式の後、12時頃解散しました。